

松代地域自治組織 地域自治推進計画

1. 計画期間 令和6年度 ～ 令和8年度 (3か年)

2. 松代地域の現状

松代地域の歴史は古く、太平字向ヶ原から縄文後期の土器類が多数出土しており、その当時からこの地に人々が生活していたことが証明されている。また、9世紀はじめの名将・坂上田村麻呂が創建したと伝えられる松茸神社（国の重要文化財）が現在も残っており、県内最古の茅葺き木造建築物として今も信仰を集めている。そして、はるか昔から豪雪等の条件不利と闘いながら農業を柱として栄えてきた地域である。

人口動向をみると昭和30年の14,023人をピークに減少し、令和6年は2,606人となっている。また、世帯数は2,402世帯（昭和30年）から1,200世帯（令和6年）となり、1世帯当たりの世帯員数は5.83人（昭和30年）から2.17人（令和6年）に減少している。

人口の減少や少子高齢化（高齢化率：令和6年 50.17%）の進行に伴い、当地域の主要産業である農業の後継者不足は深刻さが増している。また、耕作放棄地や空き家の増加は、自然災害時の危険性を高める一因となっている。

一方、ほくほく線まつだい駅は国道253号線が近接する交通結節拠点として、十日町市の西の玄関口となり、大地の芸術祭などのイベント、棚田ブームに支えられて「まつだい棚田バンク」による交流人口が増えている。来訪者の増加は、地域経済活性化の重要な役割を担うとともに、各地区での大地の芸術祭のアート作品群管理や「野菜直売所」などの自主的な活動を後押しし、地域住民が積極的に活動する姿勢が芽生えてきている。

3. 松代地域の課題

- (1) 高齢者世帯や独居老人世帯が増加しており、人口減少問題や冬期間の生活支援の取組が必要である。
- (2) 地域自治活動を担う人材や団体の育成が必要である。
- (3) 地域農業の維持及び棚田を含む耕作地保全のため、「まつだい棚田バンク」の取組や新規就農者等の後継者育成が必要である。
- (4) 災害時の避難や救助活動を円滑に行うため、地域自治組織と行政との役割分担を明確にし、かつ自治組織の活動を充実する必要がある。
- (5) 高齢者や子どもを交通事故から守る、地域ぐるみの取組が必要である。
- (6) 交流人口の拡大を図るため、大地の芸術祭関連の作品群のほか、絶景の棚田、古民家や駅周辺の施設整備を含め、各自治組織や団体の支援が必要である。

4. 松代地域の将来像、目標

- (1) 交流拠点の整備・充実による地域間交流の促進
- (2) 地域資源を活かした都市交流による地域活性化の促進
- (3) 克雪から利雪へ、高齢者にやさしいまちづくりの推進
- (4) 自然資源（棚田）を核とした観光の推進
- (5) 地域資源（文化的景観）としての棚田の保全推進
- (6) 移住者の受入環境の整備

5. 松代地域の基本方針

- (1) 集落安心づくり事業を核とした安全・安心に暮らせる生活環境の整備
- (2) 地域自治組織の自立に向けた人材・組織の育成
- (3) 100歳現役で暮らせる健康づくりの推進
- (4) 支え合い活動の充実による地域福祉力の向上
- (5) 地域文化の継承と教育活動の推進
- (6) 松代いいところマップの活用による観光交流活動の推進
- (7) 地域資源を活用した交流人口の増加と地域力の創造（大地の芸術祭、まつだい棚田バンクの取組、世田谷交流等）

7. 事業の実施計画

別紙 松代地域 地域自治推進計画体系表
(令和6年度～令和8年度)